

会社の雰囲気^{1W}を1W明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返りにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/生之

アットホームな会社に潜む問題

私は最初に訪問する会社の社員の方によく尋ねることがあります。それは「あなたの会社は一言で言うと、どんな会社ですか？」です。そこでよく出てくるのは「雰囲気のいい会社」「アットホームな感じのする会社」。このような“アットホームな会社”に深く接し、さらに社員の方の話を聞いていくと一つの共通点があります。それは、些細なことが後々大きな問題に発展しやすいことです。例えばある会社での話です。社員の岡本さん（仮名）は、営業部長から「今回、大きな案件になりそうな大手の会社があるから、岡本さんが必要なだよなぁ。ぜひ東京にいらしてもらえないか？」と打診されました。岡本さんは家族に相談したところ、諸事情により反対され、悩んだ末に単身で東京に行くことになりました。しかし、その後も家族の反発は強く、3か月後とうとう、岡本さんは社長に「もう限界なので、名古屋に戻るか会社を辞めさせてほしい」と相談したのです。

これは会社が悪いわけでも、岡本さんの家族が悪いわけでもありません。ただ打診の段階で互いに意見を言いあうことができなかったことが、問題となるのです。どんなに“アットホームな会社”であろうと、組織である以上、部下が上司に自分の意見を忌憚なく述べることは、難しいものです。その上「社長が言ってるから」「社運をかける新しい取引になりそうだから」「〇〇社（影響力のある顧客）の社長が言っているの」と言った感じに大きな力を感じる言葉を枕詞に言われればなおさらです。この例に限らず、“アットホームな会社”では、その風土ゆえに「社長に言いたいことはあるけど、まあいいかぁ・・・」となり、後々それが元で問題が発生することもしばしばです。

つまり「アットホームな会社 ≠ 意見を言い合える会社」です。しかし「うちはアットホームだから、みな意見を言っているはず」と判断してしまうことがあります。でも実際、その“意見”とは、ただ共感し合える“意見”ばかり話しているため、アットホームに感じているだけなのです。なぜなら「意見を言い合える会社」とは、社内¹で摩擦²が起きることがあるからです。ゆえに常に和気あいあいとはいかず、トップである社長はそのような摩擦を受け入れる覚悟とエネルギーが必要です。これは言うほど簡単ではありません。

私自身それを実感しています。私が取りまとめているユメオカプロジェクトでは、自立した個性豊かなメンバーの集まり。ゆえにそれぞれ自分を主張してくるし、その主張はしごく真っ当なことばかりです。私はそんな時「それぐらい俺だって分かっている。そうしたいのは山々だけど、●●●といった観点から今は無理なんだ！」と感情が先行しそうになります。そして一方で「摩擦を恐れず、主張してきてくれることは真剣に取り組んでくれている証拠。こうでなくては発展しない！」と自分を戒め冷静さを装っているのです。いかに感情と意見を区別し、主張してくれた意見に対して誠実に応えていけるか？それは、私の日々最大の試練です。しかし、思うのです。意見が言い合える会社とは、決してギスギスした会社でも仲が悪い会社でもないということ・・・。